

ブルキナファソ概要

ブルキナファソは西アフリカの中心に位置しています。国土面積は274,200平方キロメートルで、北と西はマリ、北と東はニジェール、南東はベナン、南はガーナとトーゴ、西と南はコートジボワールと国境を接しています。

国全体は熱帯に属し、3～4ヶ月続く雨季(6月～9月)と8～9ヶ月続く乾季(10月～5月)に分かれています。7月の気温は24℃から34℃の間になります。ブルキナファソには63の民族が暮らし、公用語はフランス語ですが、最も広く話されている言語はムーレ語、ディウラ語、フルフルデ語となります。

ブルキナファソはまた、数世紀に渡り脈々と受け継がれてきた伝統を誇る国でもあります。これは絶え間なく社会的対話を続けて来た成果とも言えます。多様性に富んだこの国は、宗教間の対話と平和的な共生を大切にしています。



©Expo 2025

ブルキナファソ館



数世紀にわたり培われた
伝統と2050万人の人口を誇る

ブルキナファソは、
経済的発展への道を力強く歩んでいます。

展示コンセプト

ブルキナファソが2025年大阪・関西万博に参加する最大の目的は、内発的動機付けに基づく将来の開発ビジョンを共有し、参加国の多様な経験から利益を得る点にあります。

解決しなければならない様々な課題を前に、ブルキナファソは、自国のレジリエンスを強化する取り組みの一環として、株式の大衆化を通じ、国民に都市再整備プロジェクトへの資本参加を促しています。

ブルキナファソは、勤勉で、勇気があり、誠実で謙虚な人々の国だと評判です。この国のこうした評判は、国民のモラルの高さに基づいています。

この度の万国博覧会を通じて私たちは以下のことを実現したいと考えています。

- ・ブルキナファソがアフリカの文化、経済、スポーツの主要イベントの合流点であることを示す。
- ・ブルキナファソがアフリカ映画と工芸のショーケースであることを示す。
- ・2030年までに世界に門戸を開き、他国から持続可能な発展モデルを学ぶ。

ブルキナファソ・パビリオン

ブルキナファソ・パビリオンは4つの区画に分けられます。

- ・将来の発展ビジョン
- ・豊かな文化と観光の可能性：「文化と伝統の国」
- ・輸出ポテンシャル
- ・ブルキナファソにおける日本の協力の主な成果



農業

農牧林業はブルキナファソ経済の重要な構成要素で、労働人口の90%近くを雇用し、GDPの40%近くを占めています。耕作可能な土地の面積は11.8 Mhaと推定されますが、そのうち実際に耕作されているのは僅か5.7 Mhaに過ぎません。ブルキナファソの農産物輸出は綿花が大部分を占めますが、そのほかにも特に国際市場で人気の油糧種子、西アフリカを中心に販売されている穀物、ササゲ、畜産物、国際市場、アフリカ地域圏内の市場双方で有望な果実や野菜など、実に幅広い農畜産物を販売しています。



ロロペニの遺跡

ロロペニ遺跡は、ポニ県ガウアから40キロほど離れたロロペニにあります。遺跡は、ガウアとバンフォラを結ぶ国道11号線の北700メートルの場所に位置し、首都ワガドゥグーから430km離れたロロペニの遺跡までは、舗装された道路を約400km、車で7時間かかります。遺跡は正方形によく似た形をしており、その周りを囲む壁の長さは105～106m、総面積は約11,130平方メートル、278.40haの緩衝地帯の中にあります。

遺跡は、2つの区画に分かれた城壁と、その中に南北または東西に配置された、主に長方形の小区画からなる考古学的遺跡となっています。



ティエベレ王宮

ティエベレ王宮は、ブルキナファソの中南部地方にあるティエベレ・コミュニティにある伝統的な建築物群です。500年以上の歴史を持つこの遺跡は、2024年7月26日、インドのニューデリーで開催された第46回世界遺産委員会において、ユネスコの世界文化遺産として登録されました。

